

映画上映会・講演会「オール台湾デー」開催

十一月二十四日、練馬区立区民・産業プラザ「ココネリホール」において、当会主催の「オール台湾デー」が開催された。



当日は、東京で十一月としては五十四年ぶりの雪が降り、イベント開催時刻の午後1時ごろにはうつつらと雪が積もる状況だったが、会場には一〇〇名以上が訪れる盛況となった。

映用の大型スクリーンのほか、これまでの当会の活動を紹介するパネル展示も設置された。また、台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表から贈られたスタンド花も会場を華やかに彩った。

■第一部・映画『空を拓く〜建築家・郭茂林という男〜』

第一部では当会制作のドキュメンタリー映画『空を拓く〜建築家・郭茂林という男〜』が上映された。霞が関ビル、池袋サンシャイン60など最先端の高層ビル建設を画期的な新技術により成し遂げていった当時のプロジェクトの様や、郭茂林氏が故郷・台湾を訪問した際の様子などが紹介され、多くの観客が熱心に見入っていた。

■第二部・講演「知られざる台湾」

休憩時間には参加者が熱心に展示パネルを読む姿がみられた。第

会場のホールには映画上



二部冒頭では、田代理事長から参加者に向け、当会の紹介が行われた。第二部では、筑波大学生命環境学研究所の王碧昭教授をお招きし、「知られざる台湾」というテーマで講演が行われた。王先生のご専門は



生命産業科学。今回は、台湾島の地質学的成り立ちにはじまり、「南島語族（オーストロネシア語族）」の起源が台湾であること、中世以降の諸国による台湾島統治から現在に至る歴史の変遷などを、美しい台湾の風景の写真を交えつつ、わかりやすくご教授くださった。以下、内容の一部を紹介する。

(1)「南島語族（オーストロネシア語族）」は台湾が起源

「南島語族（オーストロネシア語族）」とは、台湾から東南アジア、太平洋の島々





(ポリネシア)にまで広がる語族。人類の起源であるアフリカ大陸から移動してきた南島語族は、先史時代、まだ陸続きであった台湾島へ到達した。当時台湾がまだ島でなかったことは、「台湾」の名称の由来となった原住民(※)語が「海に近い地」という意味であったことからわかる。

交易品などの考古学的資料から、南島語族は台湾を起源とし、台湾から南洋地域へ移動していったことが明らかとなっている。この南島語族の人たちが、現在も台湾に暮らす台湾原住民で、中国との貿易が始まる以前から陸稲栽培を行っていたことも発見されている。

(2) 諸国による統治の歴史と漢族の流入

十六世紀、ポルトガルにより「フォルモサ(ポルトガル語で「美しい島」の意)」の名でヨーロッパに台湾が知られるようになった。一六二二年、オランダが澎湖島(台湾島の西方の島)を占拠し、ここに東インド会社の東アジアの貿易拠点を置いた。その後台南に、台湾最古の城・ゼーランディア城(現在の安平古堡)を築いた。これはオランダが北アメリカでマンハッタン島を開発したのと同時期のことである。また、台湾島北部にはスペインが進出していたが、オランダはこれを駆逐した。オランダは台湾原住民のキリスト教化

を進めるとともに、漢民族の移民を実施した。とはいえ、一六六二年のオランダ当時終了時、台湾の人口50万人のうち、漢民族は2%にすぎなかった。

また、同時代(十七世紀)には、「大肚王国」という、20の原住民部族が連盟した台湾初の王国が存在した。

その後、鄭成功による漢民族政権はわずか三代で終了した。清朝統治時期には、台湾の平地原住民・平埔族と漢族との混血が進んだ。これは、平埔族が女系子孫に土地を継承させる文化を持っていたためである。清朝統治終了時の台湾の人口は三〇〇万人、うち平埔族と漢族が85%を占め、原住民は15〜18%となった。そして、一八九五年に台湾は日本の統治下となり、一九四五年までその時代が続いた。日本統治時代には、日本の水利技術者・八田與一氏が烏山頭ダム・嘉南大圳を建設。台湾の農業に大きく貢献した。

講演終了後には質疑応答の時間が設けられ、参加者からは次々と積極的な質問が寄せられた。わざわざ来場くださった八田與一氏の伯



父・八田誠二氏からのご発言もあり、貴重な機会となった。

※注・中国語の「原住民」という語には日本語のような差別的意味合いはなく、逆に日本語の「先住民」という語は中国語で「既に滅びた民族」を意味するため、ここでは講演中に使用された「原住民」の語をそのまま用いました。

■第三部・映画『パッテンライ!! ～南の島の水ものがたり～』

第三部冒頭に

は、講師の一
龍齋貞花先生も
会場に駆けつけ
てくださった。

今回のイベント
のテーマである
郭茂林や八田與
一を題材とした



講演も手掛けておられる一龍齋先生は、軽妙かつ鋭刺とした語り口で、台湾に関するさらなるエピソードをご紹介くださいました。

映画『パッテンライ!!』は、日本と台湾の少年の友情と成長物語を通じ、八田與一氏の人となりや功績が描かれた作品。虫プロダクション代表取締役社長・伊藤叡氏のご同席のもと上映が行われた。

■過去最大規模のイベント開催を終えて

今回のイベントは参加者が一〇〇人超という、当会にとって過去最大規模であり、かつ当会の本部所在地である練馬で初めて開催さ

れたイベントとなった。参加者の男女比はほぼ半数ずつ、年齢層は五十代・六十代が多かった。アンケートからは、参加者の満足度がうかがえる。

・第一部感想（抜粋）：「知らなかったことが多く勉強になった」／「台湾出身者が日本でも台湾でも偉業を成したことを知りたいへんよかった。」／「こんな素晴らしい人がいたことに感動。」／「ありのままの映画はよい。初めて知りました。霞ヶ関ビルを作り上げたご苦労を垣間見させていただいた。」

・第二部感想（抜粋）：「台湾の歴史について全く知らなかったのたいへん興味深く拝聴しました。面白く勉強になりました。台湾人のルーツは意外でしたが興味深かった。」／「温かみのある話し方。台湾について無知のためこういうチャンスに会えたこと一回限りではもったいないと思いました。」／「おもしろかった。台湾の知らないこと、日本の交流を含めとても親近感わきました。」

・第三部感想（抜粋）：「八田與一のことがよく判りました。」



父が八田さんのところで働いていたので感動しました。」／「八田與一が台湾で偉業をなしたことに感銘を受けました。アニメもとても判り易くよかったです。」

・総評（抜粋）…「3部とも初めて知ることばかり。とても勉強になりました。機会があれば台湾に行ってみたくなりました。」／「台湾引き揚げ者なので興味がありました。」／「またこのような企画をもらえたらうれしいです。」／「雪で年齢的に足元が危ないと思ったのですが不思議と戸惑いもなく参加の気持ちが強かったです。映画も講演もすばらしくて本当にありがとうございました。勇気をもらいました。」